

3 「復興・防災マップ」の取組

実践協力校：石巻市立渡波小学校

石巻市立二俣小学校

石巻市立湊中学校



復興・防災マップの取組

石巻市立渡波小学校

1 ねらい

- ・地域の災害リスクやリスクに対応する施設や設備、備えについて学ぶことで防災意識を高める。
- ・復興の様子を知ることによって地域の良さを確かめるとともに、更にどのような備えがあれば地域の安全・安心につながるかを考える。

2 テーマ

- ・「渡波の復興・防災について考えよう～マップ作りを通して～」

3 指導時数

- ・20時間

4 指導の流れ

段階	時数	主な学習活動
つかむ	3	○災害について知っていることを話し合う。 ○東日本大震災の被害について知る。 講師 株式会社 木遊木代表 遠藤伸一氏 ・震災当時の渡波地区の津波被害の状況 ・自身の体験 ・災害に対する備え ・防災グッズ など  【遠藤氏の講話】
深める	9	○課題を設定して、個人やグループで調べる。 ・地震や津波のメカニズム ・東日本大震災の被害 ・地域の避難場所 ・防災グッズ など ○ハザードマップで地域の災害リスクについて理解を深める。 ・学区内のほとんどの場所で3m以上の浸水 ○まち歩き計画を立てる。 ・住んでいる地域別のグループ作り（4グループ） ・マップに何を盛り込むか話し合い（3つのポイントでのまとめ） 「安全」…避難場所や避難タワー など 「危険」…ハザードマップなど 「役立つ」…看板や備蓄品など ・まち歩きのルートの確認と役割分担  【まち歩き計画】

		○まち歩きをする。 ・津波避難場所になっている施設の見学と地域の方からの講話（実際に避難する場所、避難経路、収容人数、備蓄品、震災当時の被害、津波に対する避難の仕方などについて）   【公民館】 【復興住宅】
まとめる	8	○マップ作りに取り組む。 ・まち歩きで分かったこと（避難場所や備蓄品など） ・自分たちで調べたこと（防災グッズや心の落ち着かせ方など） ・学んだことや考えたことのまとめ   【津波浸水ハザードマップ作り】 【防災グッズについてのまとめ】

5 成果

- 地域の方から震災当時の話を聞いたり、ハザードマップを通して渡波地区の大部分が津波の浸水想定区域であることを知ったりして、地域の災害リスクについて理解を深め、高台避難の重要性を再認識することができた。
- 自分たちが住む地域の津波避難場所の位置や、実際に避難する場所、避難経路を確かめられた。渡波小学校への避難のみにとらわれず、とにかく近くの避難場所で身の安全を確保しなければならないという気付きにもつながった。
- 避難場所の備蓄品を知ることでその数や種類に限りがあることに気付き、一人一人が備えなければならないという意識が高まった。日頃から何を備蓄するか、何を持って避難するかと考えるきっかけになった。
- 地域の復興のシンボルについて地域の方から聞き、マップ上でも場所を表すことによって、渡波の復興を実感することができた。

6 課題

- 本地域は津波の災害リスクが高いことから、今回は津波の視点でマップ作りを行ったが、学区の北側には山地があり、一部の地域では土砂災害の危険性が高くなっている。そのため、津波以外の災害リスクの視点でのマップ作りも考えられる。
- 地域の避難場所は分かったが、その数が限られている。被災する場所や時間帯によって、避難行動が変わってくるため、津波に対して自分たちの命を守る行動について今後も考え続けなければならない。